

■ 掲示板

□ 国内外の関連会議情報

開催期間	行事名	開催場所	関連ウェブページ
2018年			
11/11-16	第14回核破砕材料技術国際ワークショップ	いわき産業創造館 (福島県いわき市)	http://j-parc.jp/researcher/MatLife/en/meetings/IWSMT-14/index.html
11/19-21	日本表面真空学会学術講演会	神戸国際会議場(神戸市)	https://www.jvss.jp/
11/20-24	第3回中性子・ミュオンスクール	いばらき量子ビーム研究センター (茨城県那珂郡東海村)	https://neutron.cross.or.jp/3rd-nms/index.html
11/21-22	第17回放射線プロセスシンポジウム	東京大学 弥生講堂 (東京都文京区)	http://www.rada.or.jp/fukyu/sympo.html
11/26-30	1st International School on Beam Dynamics and Accelerator Technology	ひろしま国際プラザ (広島県東広島市)	https://conference-indico.kek.jp/indico/event/56/overview
2019年			
5/19-24	IPAC19—The 10th International Particle Accelerator Conference 2019	Melbourne, Australia	http://www.ipac19.org/
6/30-7/5	リングウ・ノーベル賞受賞者会議 (要参加申請)	Lindau, Germany	https://www.jsps.go.jp/j-lindau/
7/31-8/3	第16回日本加速器学会年会 (PASJ2019)	京都大学吉田キャンパス (京都市)	https://www.pasj.jp/
8/25-30	FEL2019—39th International Free Electron Laser Conference	Hamburg, Germany	
9/8-12	IBIC2019—The 8th International Beam Instrumentation Conference 2019	Malmoe, Sweden	
9/22-27	NA-PAC19—North American Particle Accelerator Conference 2019	Lansing ML, US	
9/23-26	J-PARC2019 The 3rd J-PARC Symposium	エポカルつくば (茨城県つくば市)	http://j-parc.jp/symposium/j-parc2019/
10/5-11	ICALEPCS2019—The 17th International Conference on Accelerator and Large Experimental Physics Control System	New York, US	https://icalepcs2019.bnl.gov/
2020年			
5/10-15	IPAC20—The 11th International Particle Accelerator Conference 2020	Caen, France	http://www.ipac20.org/
8/30-9/4	LINAC2020—The 30th LINAC Conference	Liverpool, UK	https://www.cockcroft.ac.uk/archives/tag/linac/
2021年			
5/23-28	IPAC21—The 12th International Particle Accelerator Conference 2021	Santos, Brazil	

■会告

□議事録

■第27回日本加速器学会評議員会議事録

日時：2018年8月8日(水)11:50~13:40

場所：ハイブ長岡 AB 会議室

出席者：

羽島 良一(会長/量子科学技術研究開発機構), 柏木 茂(編集幹事/東北大学), 長谷川 和男(会計幹事/日本原子力研究開発機構), 古屋 貴章(庶務幹事/高エネルギー加速器研究機構), 宮本 篤(広報幹事/東芝エネルギーシステムズ(株)), 西森 信行(行事幹事/量子科学技術研究開発機構), 上坂 充(東京大学), 浦川 順治(高エネルギー加速器研究機構), 大竹 雄次(高輝度光科学研究センター), 加藤 龍好(高エネルギー加速器研究機構), 上垣外 修一(理化学研究所), 神谷 幸秀(高エネルギー加速器研究機構), 金正 倫計(日本原子力研究開発機構), 熊谷 教孝(高輝度光科学研究センター), 栗木 雅夫(広島大学 大学院), 黒田 隆之助(産業技術総合研究所), 阪井 寛志(高エネルギー加速器研究機構), 白井 敏之(量子科学技術研究開発機構), 仙波 智行((株)日立製作所), 田中 博文(三菱電機(株)), 筒井 裕士(住友重機械工業(株)), 中村 剛(高輝度光科学研究センター), 野田 章(量子科学技術研究開発機構), 林崎 規託(東京工業大学), 山口 誠哉(高エネルギー加速器研究機構), 岩下 芳久(内藤評議員の代理出席/京都大学)

議事：

0. 羽島会長より第8期評議員のうち22人出席により評議員会の定足数を満たしたため、評議員会が成立したことが宣言された。また、会議時間が短いため、承認が必要な議題、審議が必要な議題から先行して進めるとの連絡があった。

1. 柏木編集幹事より下記2点の提案があった。

A 学会誌バックナンバーの公開について、A1：会員は学会誌の最新号からウェブページでの閲覧ができるようにする、A2：発行1年後は非会員でも閲覧可能とする、A3：発行1年を経ない学会誌については編集委員会で公開が望ましいと決まっ

たものを公開する、という対応をしたい。

大竹評議員より、A3の編集委員会が公開する原稿を決定するとあるが、どんなものを想定しているかとの質問があった。柏木編集幹事より、まだ編集委員会での検討が必要だが、専門論文・解説・話題は公開が適切ではないかと考えているとの回答があった。栗木評議員より、対外的に有意義な内容を公開すべきとのコメントがあった。

野田評議員より、著者の了解を取るか質問があり、柏木編集幹事より了解を取るとの回答と、過去の著者から未公開に対する問い合わせが来ることもあるので、了解が取れないケースは少ないと思われるとの回答があった。

神谷評議員より、「編集委員が決めたもの」は「編集委員会が決めたもの」ではないかとの指摘があり、柏木編集幹事より同意があった。

B 機関リポジトリの対応について、主に年会プロシーディングスについて、要望が増えているが、学会として定めていないので、対応を明示したい。B1学会誌については、掲載1年後から学会に許可を得て機関リポジトリ掲載を行うことを手引きに記載、B2プロシーディングスは、学会の許可を得たうえで、学会提供のPDFを使用する条件で使用可能の旨をウェブページのプロシーディングス公開ページに掲載する。

栗木評議員より、年会プロシーディングスの方は事実上実行されていたので、追認するということだと思う、とのコメントがあった。

2. 古屋庶務幹事より、1名の入会承認依頼があり、承認された。

続いて、個人情報保護の取り組みについて、学会で整備を行っており、「個人情報保護方針」のウェブ公開・入会申し込み等の差し替えを行い、幹事会で個人情報に関する運用マニュアルを作成する方針であることが説明され、承認された。

評議員より、入会申込書の書式の乱れ、男女の表記が「Mr./Ms.」となっていることについて「male/female」とすべきではないか、との指摘があり、修正することになった。

3. 西森行事幹事より、組織委員会の規程について組織委員会でのメール審議結果の説明と最終案

の説明があり、修正点を反映し承認となった。

4. 長谷川会計幹事より、2017年度会計報告について説明があった。収入はほぼ予算通りとなった。支出では、事務業務委託費のうち3月分が4月の支払いとなってしまったため、一見安くなったように見えるが実際には予算通りの支出である。続いて貸借対照表の資産の説明があった。これらの会計報告について、大熊先生と早川建先生に監査報告をいただいた旨、報告があった。

参加評議員より、今後は構造的に繰越金は減っていくのか質問があった。ほか、白井評議員より、年会の赤字の影響について質問があった。長谷川会計幹事より近年はイベント会社への依頼が多く支出が増えたとの説明があった。前行事幹事の中村評議員より、年会の会計の中ではバランスしているとの説明があった。

また、長谷川会計幹事より、学会活動のうち収益事業とみなされる項目の確認など会計上の課題について、専門家の協力を得て精査を行っており、評議員会と情報を共有しながら必要な手続きを進めていきたい旨の説明があった。

長谷川会計幹事より、2018年度予算案について説明があった。年会の収支が全体予算を左右している状態であるほか、業務委託費が作業量によって変動するので、委員会の努力で多少の節約が可能であるとの説明があった。

中村評議員より、年会の会計は、数年単位でみて収支差額がゼロになるよう心掛けているとの説明があった。

参加評議員より、会費等の収入が800万円に対し、基本的な支出が1000万円となっているので、会費値上げ検討もやむを得ないとのコメントがあった。

中村評議員より、学会予算の赤字は年会に起因するものではなく、事務局移転による可能性があり、よく確認していただきたいとのコメントがあり、幹事会より事務業務費は三美印刷の時を目安に設定しているとの説明があった。

以前に所属機関で年会開催を経験している神谷評議員より、年会開催で学会会計を黒字化できるよう、大きな機関での開催が良いのでは、との意見があった。これに対し、同じく実行委員長の経験がある白井評議員より、機関の規模よりも会場経費のあまりかからない大学等で人数が確保でき

る場合、黒字傾向になるとのコメントがあった。助成金の影響もあるため、助成金が出るかどうか確認が望ましい。また、年会の売り上げによって学会が運営されるというのも不適切に思われるので、年会・学会ともに収支の差があまりないように心がけるべきではないかとの意見があった。

会計処理について、過去には本会計と年会会計を分けていた。栗木評議員より、年会と本会計を分けた場合の税金について質問があり、長谷川会計幹事より、会計が別でもひとつの団体であるため、税制上は一事業者扱いとの回答があった。

参加評議員より、参加者は劇的には増えないので、多少は年会で黒字を増やす努力もあった方がよいとのコメントがあった。

羽島会長より、今年、国際文献社での運営がはじめてなので、様子を見て節約等の検討をしていきたいとのコメントがあった。2017年度の決算報告、および2018年度予算案は承認された。

5. 西森行事幹事より、年会4日案について説明があった。次回の第16回年会では会場の京都大学で、例年通りの2日ではポスターを貼りきれないため、4日とすることを提案し、メールで来たコメントの説明があった。

大竹評議員より、実質は4日になっているのと変わらない状態なので、中身を精査して盛り上げられるようにすべき、との意見があった。

西森行事幹事より、来年は4日としなければ難しいが、その他は4日でなくとも問題ないケースが多いと思われるとの補足があった。

評議員より、学会の質を上げて3日に収めるべきだが、ポスターが掲示できないならばやむを得ないとの意見があった。ほかの評議員より、国際学会等のようにすべてポスターで申し込みを受け付け、口頭を選ぶべきとの意見があり、白井評議員からは、ポリシーとして決めるならばプログラム委員会から提案すべきとの意見があった。

審議の結果、京都開催がやむを得ず4日になるようであれば問題ないが、今後4日に決めるのではなく、基本的には3日のままで、現地や会場の都合によって変更を提案できるようにしておくことになった。

6. 宮本広報幹事より、シニア世代の研究者・技術者の経験をまとめて「オーラルヒストリー」とし、ウェブページで公開する試みについて説明があっ

た。羽島会長より評議員への対象者推薦依頼があった。これに対し、参加評議員より学会誌巻頭言の著者や、特別功労賞の受賞者、過去のリニアック研究会のことを知る人などの提案が出された。

7. 古屋庶務幹事より、軍事研究に関する議論の今後の流れについて、タスクフォースを立ち上げる報告があった。

8. 古屋庶務幹事より、加速器学会の若手の会の立ち上げを視野に、ビーム物理研究会の若手の会に、設立経緯等を紹介する記事を学会誌に執筆いただくことになった旨の報告があった。

参加評議員より、若手の会に入るには会員になっている必要があるかどうか質問があり、羽島会長より、それらも含め、これから検討を進めたいとの回答があった。たとえば年会賞は、会員でない人も多い。なるべく会員になっていただきたいが、今後の検討事項にしたい。

9. 西森行事幹事より、2020年の年会を松山市のひめぎんホールで開催することについて、準備状況の説明があった。

白井評議員より、実行委員長の人選について質問があり、組織委員長となる中村評議員が検討、依頼をすとの回答があった。現地には加速器ユーザーは一定数いるが、加速器学会にご協力いただける人は難しそうなので、SPRING-8の会員等になる可能性がある。

10. 神谷ハンドブック編纂委員長より加速器ハンドブックが無事刊行されたとの報告があった。古屋庶務幹事より、10月まで会員価格で購入可能との案内があった。

11. 上坂評議員より、学術会議より大型研究計画に関するマスタープランの公募が来年の2月にあり、加速器の分野でも申請をしてほしいとのコメントがあった。

■第16回総会議事録

日 時：2018年8月9日(木)16:20~17:05

場 所：ハイブ長岡 合同会場

出席会員数：委任状46通、出席者数196名
合計242

議 事：

0. 羽島会長より、委任状46通、現在の出席者数196名で合計242となり、会員数897名の10分の1を超えているため、定款第4章35条の定めによ

り総会成立の旨、宣言があった。

1. 羽島会長より、開会宣言にかえて挨拶があった。学会活動により会員の価値が高まると、学会の価値・評価も上がる。学会は会員の価値を高めることのできる場を提供するのが役目である。北大での年会発表数をみると、会員数に対し発表件数が多い傾向がみられる。学会誌については、ほとんど会員の中での閲覧にとどまっているほか、ウェブページでもGoogleでの「加速器」を検索した結果では5月時点で34番目の表示となっており、外部へのアピールはやや不足していると感じられる。

会費は個人会員と賛助会員がそれぞれ500万円の収入があり、産業界の尽力によるところが大きい。年会の場で相互に活発な交流をしていただきたい。

2. 宮本広報・ウェブ幹事より委員メンバーと1年間の活動報告、今度の計画についての説明があった。広報委員はこれまでのメンバーに量研機構の永井良治氏が参加することになった。

通常活動としてウェブページの更新をしているほか、事務局移転前から準備していたデザインのリニューアルを7月15日に行い、コンテンツの充実を計画している。ただし、国内の加速器情報や、加速器研究のできる教育機関についての情報が古いので、情報提供をお願いしたい。

ほか、新しいコンテンツとして、特別講演の動画等を見られるようにした「社会に役立つ加速器」とマイページの設置を計画している。

年会プロシーディングスの編集作業は有志の協力を得て、年会後速やかに作業を進められるよう準備を行った。また、シニア世代の聞き取り記録として「オーラルヒストリー」の編纂を新しく計画している。

3. 柏木編集幹事より、編集委員会の活動報告について説明があった。編集委員は春から原子力機構の金正倫計氏、年会からJASRIの大竹雄次氏が参加することになった。

学会誌は順調に刊行しており、4号を特集号として進めている。次の15巻4号はSuper KEKBを取り上げる。

学会誌のバックナンバーの閲覧について、現在は会員限定で1号前まで閲覧可としているが、広く会員外にも認知度を上げるため、ルールを下記

のように改訂することになった。

- ・会員は学会誌の最新号からホームページで閲覧可能
- ・発行より1年を経過した学会誌の記事については、非会員でも学会ホームページにて閲覧可能
- ・発行より1年を経過しない記事についても、目次および編集委員会で決めた記事は非会員でも閲覧可能

ほか、近年機関リポジトリについての問い合わせが増えているので、学会誌・年会プロシーディングスの対応について定めることになった。原則として著作者本人が所属する機関での機関リポジトリの登録は、所定の手続き後、可能とする。

4. 古屋庶務幹事より庶務幹事報告があった。

学会で協賛、共催、後援した会議数は例年並みとなっている。会員数は7月20日時点で名誉会員を含む正会員897（うち学生45）、賛助会員60社、購読会員10社で微増傾向にある。

3月まで業務委託していた三美印刷(株)の事務局業務撤退につき、3月30日にメール配信、4月5日付で(株)国際文献社に移転した。経費や会員負担の増大はない見込みである。

2017年5月に個人情報保護の法律が改正になり、加速器学会のような小規模団体も対応が必要な事業者と位置づけられることになったため、急ぎ入会申し込みページやガイドラインの準備を行っている。

昨年、倫理綱領を策定したが、軍事研究については議論未熟のため含めていない。これについて幹事会と評議員の一部でタスクフォースを立ち上げることにした。

中性子科学会より加速器学会に、中性子源に適切な加速器の検討のため、連携依頼があり、京大の岩下氏、J-PARCの内藤氏を世話人にタスクフォースを立ち上げ、この報告を学会誌15巻2号に掲載した。

若手研究者の活躍を促すため若手の会を立ち上げることになり、まず参考としてビーム物理研究会若手の会の設立経緯、活動状況を学会誌15巻3号にご寄稿いただくことになった。

かねてより編集を行っていた『加速器ハンドブック』が今年刊行された。定価は35,000円となっているが、年会会期中の受付にある申し込み

用紙を使用して申し込むと会員特別価格31,500円で購入が可能となっている。

5. 西森行事幹事より、行事委員の紹介と、第15回年会の登録状況について報告があった。

参加登録人数は364名、企業展示65小間で例年より参加数が増加している。特別講演は7日の夕方に村山齊先生の「加速器で探る宇宙の謎」があり好評だったほか、学会賞講演4件、技術研修会（テーマ「シミュレーション技術」）で山岡広先生、倉橋貴彦先生のご講演をいただいた。そのほかは例年並みのプログラムとなっている。また、年会関連の業務については国際文献社への委託を進めている。

翌年の第16回年会は2019年7月31日より8月3日までの会期で、京都大学吉田キャンパスで開催し、組織委員長を大垣英明氏、プログラム委員長を神門正城氏、実行委員長を岩下芳久氏で準備を進めている。

2020年の第17回年会は8月4日から7日で、愛媛県の松山市にある「ひめぎんホール」を予定している。組織委員長は中村剛氏、プログラム委員長は大竹雄次氏にお引き受けいただいた。

また、第16回年会では会場の都合でポスター発表を掲示するために4日間の会期が必要となるため、年会4日案を提案・コメント募集していたが、昨日8日の評議員会において議論の結果、3日、4日にこだわらず、会場の都合に応じてやむを得ない場合4日に延長することになった。

年会終了後、プロシーディングスをすみやかに編集・公開するため、提出期限を厳守いただきたい。

6. 長谷川会計幹事より2017年度の決算報告、貸借対照表、資産負債明細、審議事項の説明と、予算案について報告があった。

2017年度の決算で、会費収入は多少増加している。年会の売り上げにあたる学術的会合収入は収支とのバランスで考えたい。収入は例年並みである。支出については、事務業務費が最後の3月分が4月の支払いとなってしまったため、11か月分となっている。このほか、学会のホームページ更新、年会特別講演の撮影経費、ハンドブック刊行経費等で40万ほどの赤字となった。

監査は野田章先生ご辞退のため、評議員会で承認の上、後任として早川建先生に依頼し、大熊春

夫先生とともに6月20日に監査をおこない、無事承認をいただいた。

予算案について、会員数等は3月末の状況で計算している。収入はほぼバランスし、運営費年会の事業支出35万は初年度のみ発生する移転費用だが、2017年度内での支払いが遅れた事務業務費1か月分が入る。ほか、特別講演撮影費、オーラルヒストリーの費用があり、総額としては前年並みになる見込みで、20万程度の赤字決算が見込まれる。

引き続き、会員増加と会費の期限内の支払いについて協力してほしい。

質 疑：

会員：2017年度の学会賞状用紙等の予算が10万円だったようだが、昨年度と今年の使用額は1万円以下となっている。1万円の誤りではないか。

長谷川会計幹事：以前よりコストダウンしたためと思われる。今後は数千円で推移する予定。

会員：軍事研究タスクフォースの意味、期間について説明してほしい。

古屋庶務幹事：これから軍事研究の議論をどのように進めていくかを検討するためのタスクフォースを想定している。年末ごろまでに情報を集めて検討の上、論点を絞り、学会誌や年会で会員間の議論を促すものとなると思われる。

会員：個人情報保護については近年ヨーロッパが厳しく対処しているように思うが、海外との対応で問題が生じる可能性もあるので、これについてもタスクフォースを作るなど、慎重な検討

が必要ではないか。

羽島会長：個人情報保護は国内の法律に基づくので、加速器学会としては国内の法律を遵守するよう制定すれば問題ないと思われる。ただ、ヨーロッパであっても個人情報保護の精神は共通しており、情報収集の際は目的を明らかにしてそれに対する承認を得たうえで収集すること、収集後は目的外の使用を禁じ、漏洩しないよう管理することである。このほか、学会で問題になりうるものとしては、個人の特定できる顔写真を公開する問題で、これは日本国内でも不可。まず規程を作ってウェブページで公開するので、意見がほしい。

会員：評議員会での結論だけでなく、議論の経過が一般の会員にもわかると良いと思っていたので、軍事研究や年会4日案に関するパブリックコメントで詳細が書かれていたのは良かったと思う。

羽島会長：学会誌や年会で会員との議論を深め、最終案を決めていきたいと思う。

■会員移動（2018年7月～9月）

〔一般会員入会〕

土田 一輝（名古屋大学大学院）

三塚 岳（高エネルギー加速器研究機構）

山崎 高幸（高エネルギー加速器研究機構）

〔学生会員入会〕

布袋 貴大（高エネルギー加速器研究機構）

ほか1名

〔退会〕2名

■ご案内

2018年11月26日より、学会事務局の電話・FAX番号が変更となります。

（変更後）

電話番号：03-6824-9382 FAX：03-5227-8631

2018年11月26日より、編集事務局は下記に移転いたします。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町332-6 パブリッシングセンター

日本加速器学会 編集事務局

電話番号：03-6824-9363 FAX：03-5206-5332

E-mail：pasj-edit@bunken.co.jp（メールは変更なし）

日本加速器学会 2017 年度決算報告

収入の部

2017年4月1日～2018年3月31日

科 目	細 目	前期実績	当期予算案	当期実績
会費収入		8,186,000	8,336,000	8,430,000
正会員	(187件 + 前年度前受金649件) × 6,000円	4,764,000	5,022,000	5,016,000
学生会員	(11件 + 前年度前受金22件) × 2,000円	104,000	76,000	66,000
賛助会員	(70口 + 前年度前受金255口) × 10,000円	3,200,000	3,150,000	3,250,000
購読会員	9口 × 10,000円	110,000	80,000	90,000
書店経由購読会員	(前年度前受金1口) × 8,000円	8,000	8,000	8,000
事業収入		15,983,469	15,022,500	15,304,136
会誌販売収入	学会誌売上	38,880	30,000	0
会誌別刷収入	「加速器」Vol. 14, No. 1～No. 4	651,029	600,000	761,136
会誌広告収入	「加速器」Vol. 14, No. 1～No. 4	1,949,400	1,900,000	1,823,040
学術的会合収入	第14回年会	13,344,160	12,492,500	12,719,960
雑収入		13,049	30	3,042
受取利息		30	30	42
その他		13,019	0	3,000
その他		0	0	
その他		0	0	
収入合計		24,182,518	23,358,530	23,737,178

支出の部

科 目	細 目	前期実績	当期予算案	当期実績
学会誌出版費		3,760,554	3,840,000	3,674,071
会誌発行費	印刷・原稿管理・校正・発送	3,626,094	3,700,000	3,622,231
別刷印刷費	別刷り印刷・発送	134,460	140,000	51,840
運営費		16,344,163	11,510,884	13,828,395
学術的会合支出	第14回年会開催費(内事務局手数料155万円)	14,871,121	10,010,884	12,051,963
学会賞費	賞状用紙等	7,992	100,000	5,400
会場費	会議室使用料, 会議運営費	82,700	100,000	130,174
旅費	各委員会旅費	1,382,350	1,300,000	1,640,858
事務業務費		5,531,237	5,556,000	4,962,573
定額業務委託費(注1)	54万×12ヶ月-年会分担分155万 会員管理, 庶務, 会計, バックナンバー保管 等	4,930,000	4,930,000	4,390,000
事務局出張費	臨時会議のみ	21,600	25,000	0
通信費	郵便・電話・サーバー使用料等	234,433	230,000	125,742
	封筒印刷費	101,412	100,000	118,800
備品費		4,696	10,000	352
事務用品費		0	10,000	33,001
消耗品費	コピー用紙, 役員名刺代など	2,332	10,000	5,010
運送費	宅急便等	16,072	16,000	51,764
事務局旅費	会議・打ち合わせ出席時の旅費実費	23,080	25,000	46,760
支払手数料	在庫処理料, 契約料, 収入印紙, ドメイン使用料など	28,157	30,000	118,983
振込手数料	銀行振込, 年会会期以外のカード決済, 受取人払時の手数料	169,455	170,000	72,161
その他		375,400	1,685,000	1,695,200
過去報文集編集	過去報文集目次作成	375,400	0	18,000
	第14回年会プロシーディングス編集作業料	0	0	229,000
加速器ハンドブック執筆料	2016年度より繰越	0	915,000	973,000
ホームページ更新	2016年度より繰越	0	200,000	194,400
年会特別講演撮影	撮影, 編集, 公開(2016年, 2017年分)	0	570,000	280,800
その他		0	0	
支出合計		26,011,354	22,591,884	24,160,239

収支差額・剰余金

科 目	細 目	前期実績	当期予算案	当期実績
収支差額		-1,828,836	766,646	-423,061
前期繰越剰余金		9,692,952	7,864,116	7,864,116
次期繰越剰余金		7,864,116	8,630,762	7,441,055

注1 2018年3月分は2018年度支払に繰り延べのため11カ月分の支出となった

2017 年度貸借対照表 (2018 年3月31日現在)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
現金および預金		前受金	
三菱東京UFJ銀行残高	4,319,258	正会員会費 (672件×6,000円)	4,032,000
郵便振替貯金残高	9,613,138	学生会員会費 (18件×2,000円)	36,000
みずほ銀行 (年会用口座) 残高	50,000	賛助会員会費 (260口×10,000円)	2,600,000
		書店経由購読会員会費 (1件×8,000円)	8,000
手持ち現金残高	134,659		
		前期繰越剰余金	7,864,116
		当期収支差額	-423,061
合計	14,117,055	合計	14,117,055

2017 年度資産負債明細 (2018 年3月31日現在)

資 産 の 部			
科 目	金 額	細 目	金 額
現金および預金	14,117,055	三菱東京UFJ銀行残高	4,319,258
		郵便振替貯金残高	9,613,138
		みずほ銀行 (年会用口座) 残高	50,000
		手持ち現金残高	134,659
合計	14,117,055	合計	14,117,055

負 債 の 部			
科 目	金 額	細 目	金 額
会費前受金 (3月31日現在入金分)	6,676,000	正会員会費 (672件×6,000円)	4,032,000
		学生会員会費 (18件×2,000円)	36,000
		賛助会員会費 (260口×10,000円)	2,600,000
		書店経由購読会員会費 (1件×8,000円)	8,000
合計	6,676,000	合計	6,676,000

剰 余 金 の 部			
科 目	金 額	細 目	金 額
前期繰越剰余金			7,864,116
当期収支差額			-423,061
合計			7,441,055


剰余金処分計算書


前期繰越剰余金	7,864,116
当期収支差額	-423,061
次期繰越剰余金	7,441,055

監査報告書

日本加速器学会の平成29年4月1日～平成30年3月31日の決算書について、監査の結果、正確かつ適正であることを認めます。

平成30年6月20日
日本加速器学会

監事 早川 建 

監事 大熊 春天 

日本加速器学会 2018 年度予算

収入の部

2018年4月1日～2019年3月31日

科 目	細 目	2018 年度予算 (A)	2017 年度実績 (B)	増減高 (A-B)
会費収入		8,416,000	8,430,000	-14,000
正会員	830名×6,000円	4,980,000	5,016,000	-36,000
学生会員	44名×2,000円	88,000	66,000	22,000
賛助会員	325口(60社)×10,000円	3,250,000	3,250,000	0
購読会員	9口×10,000円	90,000	90,000	0
書店経由購読会員	1口×8,000円	8,000	8,000	0
事業収入		17,258,400	15,304,136	1,954,264
会誌販売収入	学会誌売上	10,000	0	10,000
会誌別刷収入	「加速器」Vol. 15, No. 1～No. 4	550,000	761,136	-211,136
会誌広告収入	「加速器」Vol. 15, No. 1～No. 4	1,750,000	1,823,040	-73,040
学術的会合収入	第15回年会	14,948,400	12,719,960	2,228,440
雑収入		40	3,042	-3,002
受取利息		40	42	-2
その他		0	3,000	-3,000
その他		0	0	0
その他		0	0	0
収入合計		25,674,440	23,737,178	1,937,262

支出の部

科 目	細 目	2018 年度予算 (A)	2017 年度実績 (B)	増減高 (A-B)
学会誌出版費		3,700,000	3,674,071	25,929
会誌発行費	印刷・原稿管理・校正・発送	3,650,000	3,622,231	27,769
別刷印刷費	別刷り印刷・発送	50,000	51,840	-1,840
運営費		16,908,400	13,828,395	3,080,005
学術的会合支出	第15回年会開催費	14,948,400	12,051,963	2,896,437
学会賞費	賞状用紙等	10,000	5,400	4,600
会場費	会議室使用料	250,000	130,174	119,826
旅費	各委員会旅費	1,700,000	1,640,858	59,142
事務業務費		6,469,178	4,962,573	1,506,605
基本業務委託費	三美印刷 (2018年3月分, 4月日割分)	629,000		629,000
基本業務委託費	国際文献社基本料金	3,690,178	4,390,000	-699,822
	会員管理, 庶務, 会計, バックナンバー保管 等			
	移転準備費用(初年度のみ)	350,000		350,000
	(以下の項目は超過分に含むものとして評価)	1,800,000		1,800,000
基本以外・超過分				
事務局出張費				
通信費	郵便・電話・サーバー使用料等		125,742	-125,742
	封筒印刷費		118,800	-118,800
備品費			352	-352
事務用品費			33,001	-33,001
消耗品費	コピー用紙, 役員名刺代など		5,010	-5,010
運送費	宅急便等		51,764	-51,764
事務旅費	会議・打ち合わせ出席時の旅費実費		46,760	-46,760
支払手数料	在庫処理料, 契約料, 取入印紙, 税務コンサルタント料など		118,983	-118,983
振込手数料	銀行振込, 年会会期以外のカード決済, 受取人払時の手数料		72,161	-72,161
その他		360,800	1,695,200	-1,334,400
年会プロシーディング編集	(年会予算に移行)	0	247,000	-247,000
加速器ハンドブック執筆料		0	973,000	-973,000
ホームページ更新		0	194,400	-194,400
年会特別講演撮影	撮影, 編集, 公開	280,800	280,800	0
オーラルヒストリー編纂	聞き取り書き起こし, 出張費	80,000	0	80,000
その他		0	0	0
支出合計		27,438,378	24,160,239	3,278,139

収支差額・剰余金

科 目	細 目	2018 年度予算 (A)	2017 年度実績 (B)	増減高 (A-B)
収支差額		-1,763,938	-423,061	-1,340,877
前期繰越剰余金		7,441,055	7,864,116	-423,061
次期繰越剰余金		5,677,117	7,441,055	-1,763,938

■編集後記

前号からの新たな企画として「編集後記」が始まったことにお気づきでしょうか？

今年度から学会誌編集委員会の陣容にも少し変化があり、柏木編集長のもとであらたなスタートを切ったところです。今号にはいつもの学術的な記事に加えて教育の観点から総研大に関する記事も執筆いただいております。幅広い内容になっていると思います。学会誌の投稿記事分野には「人材育成」があります。学会誌の創刊直後には多くの記事が執筆されておりましたが最近ではこのカテゴリの記事は少なかったと思います。大学や企業などの状況も当時とくらべると変わってきている事と思いますので、我こそはと思う方は是非とも自分の経験や現状などを学会誌に投稿して頂きたいと思います。

さて私事で申し訳ないのですが、いつ頃から編集委員をやっていたのかと思って調べたところ最初は2010年からでしたので既に8年近くやって

きたことに気づきました。この間、岩下委員長、栗木委員長のもと微力を尽くしてきたわけですがやはり学会誌には「編集委員長」そして「学会長」の色が出るものだなと感じています。どちらが良いとか悪いとかという比較ではなく、それぞれに特徴があるという意味です。いずれも編集委員として多くの人と記事に接することができたのは貴重な経験でした。既に加速器学会長である羽島さんからメッセージが出ておりますが、編集委員が「お願いして」「無理を言って」「忙しいところ申し訳ございませんが」と言いつつ記事を書いて頂くのではなく、学会員のみなさんから「ぜひ書かせてほしい」と言われるような学会誌にしていきたい、今後とも尽力する所存です。

KEK 加速器研究施設 加速器第七研究系
帯名 崇

加速器学会個人会員の皆様へ

2019年度(2019年4月～2020年3月)の日本加速器学会費について

加速器学会の会計年度は4月から3月となっており、会費のお支払いは前納制です。

正会員 6,000円 学生会員 2,000円/1年

○会費支払い方法を口座引落でご登録の場合

ご指定の口座から振り替えさせていただきます。振替日は下記の通りですので、期日までに口座のご確認をお願い致します。

2019年1月23日(水)

○引落口座を登録していない場合

1月に郵便払込用紙をお送りいたします。お手元に届きましたら、お早目のお支払いをお願い致します。